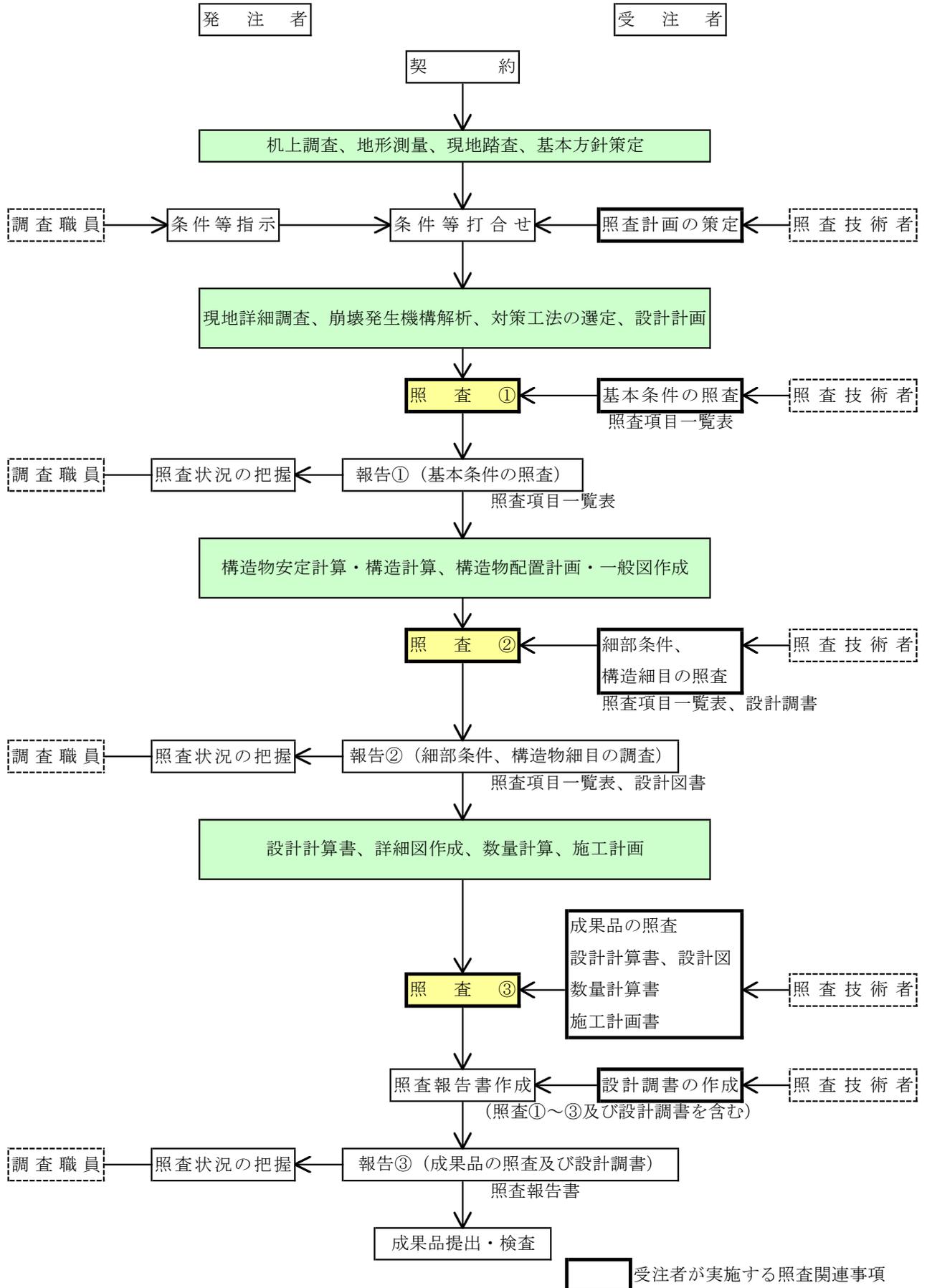


森林土木工事詳細設計照査要領

山腹工詳細設計照査要領

令和2年12月

山腹工 詳細設計 照査フローチャート



注記 行程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。

基本条件の照査項目一覧表

(照査 ①)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照査の日付 : 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	照査技術者	管理技術者
受注者印		

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	照査項目	照査内容		照査①			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
				該当対象	確認			
					該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入		
1	設計の目的、主旨、範囲	1)	設計の目的、主旨、範囲を把握したか。					
		2)	設計の内容、工程等について具体的に把握しているか。					
2	貸与資料の確認	1)	貸与資料は最新版であるか確認したか。また、不足点及び追加事項があるか確認したか。不足がある場合には、資料請求、追加調査等の提案を行ったか。					
		2)	全体計画がある場合、内容を把握したか。					
3	現地踏査	1)	地形、地質及び転石等の現地状況を把握しているか。					
		2)	斜面（近隣斜面含む）の崩壊状況を把握しているか。					
		3)	湧水状況を把握しているか。					
		4)	樹木、植生等の状況を把握しているか。					
		5)	保全対象を把握しているか。					
		6)	用地の境界、他法令に係る区域等を確認しているか。					
		7)	周辺の土地利用状況、過去の被災状況等を把握したか。					
		8)	自然環境、景観状況への配慮の必要性、範囲を確認したか。					
		9)	施工時の留意事項を把握したか。					
		10)	支障物件の状況を把握したか。（地下埋設物、架空条件の整理、既設樋管・橋梁などの構造物との離れ等）					
		11)	施工済み構造物について工事完成図面は確認したか。また、現地状況は整合しているか。					
		12)	発注者と合同で現地踏査を実施したか。					
4	設計基本条件	1)	設計に使用する技術基準、参考図書を確認したか。また、最新版であるか確認したか。					
		2)	全体計画がある場合、計画に準じて業務が遂行されるか。					
		3)	過年度成果における「申し送り事項」に対して確認し、対応方法について協議したか。					
		4)	計画する構造物の目的、型式及び種別等を理解しているか。					
		5)	安定計算の許容値、計算方法は確認したか。					
		6)	対策工の選定は、「工法選定フロー」又は「比較検討書」等により行われているか。					

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No.	照査項目	照査内容	照査①			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
			該当対象	確認			
				照査を完了した項目について○印を記入	確認日 その日付を記入		
5	地盤条件	1) 地層構成は妥当か。					
		2) 土質定数の設定は妥当か。また、隣接工区との整合は図られているか。					
		3) 支持力の設定は妥当か。					
		4) 地下水位、水圧の設定は妥当か。					
		5) ボーリング調査深度は適切か。					
		6) 追加調査の必要性はないか（対策工設計に必要な調査は全て行われているか）。					
6	施工条件	1) 施工可能な施工機械、運搬車両を検討したか。					
		2) 施工時期を制約する問題点を把握したか。					
		3) 施工ヤード等利用可能な箇所を把握しているか。					
7	関連機関との調整	1) 関連機関との調整内容を確認したか。					
		2) 地権者及び地元等の調整内容を理解したか。					
		3) 占有者との調整内容を理解したか。					
		4) 他事業との調整内容を理解したか。					
8	環境及び景観検討	1) 環境及び景観検討の必要性、方針、内容、範囲等を理解したか。					
		2) 環境及び景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなっているか。					
9	コスト削減	1) コスト削減工法を検討したか。					

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

追加項目記入表

No.	照査項目	照査内容	照査①			確認資料	備考
			該当対象	確認	確認日		
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入		
						確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等に当たっての留意事項」を参照

細部条件の照査項目一覧表
(照査 ②)

業務名： _____

発注者名： _____

受注者名： _____

照査の日付： 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	照査技術者	管理技術者
受注者印		

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の 概要「6. その他記 載等に当たっての留 意事項」を参照
			該当対象 該当対象項 目を抽出し ○印を記入	確認 照査を完了 した項目に ついて○印 を記入	確認日		
					その日付を記 入		
1	協議関連	1) 協議結果は諸条件と合致しているか。					
2	一般図	1) 平面図（法線、取付等）は適切か。					
		2) 縦・横断面図は適切か。					
		3) 基本条件等との整合がとれているか。					
		4) 既設、次年度以降の計画及び他所管構造物等との関連は適切か。					
3	使用材料	1) 使用する材料に制約はあるか。					
		2) 現地材の利用の可能性を検討しているか。					
		3) 使用材料の規格は基準と合致しているか。					
		4) 木材の積極的な利用を検討しているか。					
		5) 再生資材の利用を検討しているか。					
4	基本事項	1) 中心線・解析断面の位置は適切か。					
		2) 想定される崩壊の形態と要因は確認しているか。					
		3) 標準法面勾配等、斜面の安定検討に必要な条件を検討しているか。					
		4) 使用可能な機械等、施工条件は確認しているか。					
		5) 運搬路等、工法に影響を与える現場条件を確認しているか。					
		6) 対策工法の選定は、兵庫県治山技術基準の山腹工選定フローに基づいた検討が行われているか。					
		7) 対策工法を選定は、複数工種による経済性、施工性等、現地条件等の比較検討により決定しているか。					
		8) 対策工法及び施設配置は、荒廃地の特性及び崩壊原因に対応しているか。					
		9) 既設構造物等と整合しているか。					
		10) 施工条件から仮設計画等の必要性を検討しているか。					
		11) 具体的な維持管理の方法等の計画について考慮したか。					
5	法切工・切土工	1) 施工範囲の設定は適切か。					
		2) 勾配設定は現地状況等を考慮し、決定しているか。					
		3) 小段は適正な位置に設計され、適正な幅を確保しているか。					
		4) 法切土砂の処理方法は適切か。					
		5) 端部の擦りつけは適切に設計されているか。					
		6) 特殊条件（湧水、土質等）を考慮しているか。					
		7) 施工方法に配慮しているか。					

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の 概要「6. その他記 載等に当たっての留 意事項」を参照
			該当対象 該当対象項 目を抽出し ○印を記入	確認 照査を完了 した項目に ついて○印 を記入	確認日		
					その日付を記 入		
6	土留工	1) 設置目的は適切か。					
		2) 種別の選定は適切か。					
		3) 位置、高さ及び方向は適切か。					
		4) 土留工の平面法線は現地地形に沿っているか。					
		5) 土留工の間隔は適正か。					
		6) 土留工の地山タイプ、盛土タイプの考え方及び区分は適正か。					
		7) 安定条件は満たされており、根入れも確保されているか。					
		8) 水抜き配置等は、治山技術基準及び現地状況を考慮しているか。					
		9) 裏込栗石は設けているか。					
		10) 湧水等への配慮がされているか。					
		11) 景観に配慮しているか。					
		12) 施工方法に配慮しているか。					
7	埋設工	1) 埋設工の必要性と目的を検討したか。					
		2) 埋設工の種別は適正か。					
8	水路工	1) 目的及び必要性は適切か。					
		2) 種別は現地状況を考慮し、検討されているか。					
		3) 地表水の流入箇所、湧水箇所を把握し、効果的な水路配置としたか。					
		4) 水路の線形（平面線形、縦断線形）は適切か。					
		5) 通水断面は適切か。					
		6) 漏水、溢水及び跳水のおそれがない構造か。					
		7) 流末処理は適切か。					
		8) 施工方法に配慮しているか。					
9	暗渠工	1) 目的及び必要性は適切か。					
		2) 設置箇所は、湧水箇所、集水部、盛土箇所等に適切に計画されているか。					
		3) 構造及び勾配は、現地状況を考慮し決定しているか。					
		4) 集水した水の排水処理は適切か。					
		5) 施工方法に配慮しているか。					

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
			該当対象	確認	確認日		
					その日付を記入		
10	モルタル（コンクリート）吹付工	1) 目的及び必要性は適切か。					
		2) モルタル（コンクリート）吹付工の適用は、切土法面における法面保護工フロー等を参考にして適正に検討したか。					
		3) モルタル（コンクリート）吹付工は、吹付厚さ及び法肩の処理の設計は適正か。					
		4) 吹付工設計法面の湧水等に対する対策は適正に検討したか。					
11	法枠工	1) 通常山腹工と法枠工の使い分けは現地条件、保全対象、及び経済性等を総合的に判断し、適正に使い分けられたか。					
		2) 法枠工の種別選定は、山腹工の選定フローを参考にして適正な選定をしたか。 (工法) ・プレキャスト法枠工 ・現場打ちコンクリート法枠工 ・吹付法枠工 ・簡易法枠工					
		3) 枠断面及びスパンの決定方法は適切か。					
		4) 枠内吹付工法は、切土法面における法面保護工フロー等を参考に現地状況に応じて適正に選定したか。					
		5) 端部は地山に適正に取り付いているか。					
		6) 枠断面、梁断面、間隔は適正か。					
		7) 湧水等の配慮をしたか。					
		8) 構造計算が必要な場合、設計条件は適正か。					
		9) 隔壁工、縁切を適正に配置したか。					
		10) 施工方法を配慮したか。					
		11) 地質及び現地調査結果から、アンカー工及びロックボルト等の必要性を検討したか。					
		12) 法枠工枠内の排水対策を検討したか。					

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の 概要「6. その他記 載等に当たっての留 意事項」を参照
			該当対象 該当対象項 目を抽出し ○印を記入	確認 照査を完了 した項目に ついて○印 を記入	確認日		
					その日付を記 入		
12	地山補強土工 (鉄筋挿入工)	1) 当該現場での地山補強土工の必要性と目的について検討したか。					
		2) 他工法と安全性、施工性、経済性等の比較検討を行って採用を決定したか。					
		3) 斜面安定解析に使用した土質定数は、地盤調査結果に基づいた適切な値を使用しているか。					
		4) 鉄筋挿入工定着部の地質状態は安定しているか。					
		5) 鉄筋挿入工の配列・位置は、斜面安定解析結果を反映しているか。					
		6) 鉄筋長の長さは適切か（2～5 m程度）。					
		7) 受圧構造物は、現地状況、施工性、経済性を検討して決定したか。					
		8) 受圧構造物の支持地盤は設計アンカー力に対して安定しているか。					
		9) 受圧構造物として使用する法枠工の構造計算は適切か。					
		10) 確認試験の方法、設計荷重は整理しているか。					
13	地山補強土工 (RR併用工 法)	1) 当該現場での地山補強土工の必要性と目的について検討したか。					
		2) 当該現場の活断層からの距離は適切に計測されているか。					
		3) 他工法と安全性、施工性、経済性等の比較検討を行って採用を決定したか。					
		4) 斜面安定解析に使用した土質定数は、地盤調査結果に基づいた適切な値を使用しているか。					
		5) 鉄筋挿入工定着部の地質状態は安定しているか。					
		6) 鉄筋挿入工の配列・位置は、斜面安定解析結果等を反映しているか。					
		7) 鉄筋長の長さは適切か（2～5 m程度）。					
		8) 施工可能な削孔方法を検討したか。					
		9) ナット締付トルク値は整理されているか。					
		10) 確認試験の方法、設計荷重は整理しているか。					

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等に当たっての留意事項」を参照
			該当対象	確認	確認日		
12	グラウンドアンカー工	1) 当該現場でのアンカー工の必要性と目的について検討したか。					
		2) 他工法と安全性、施工性、経済性等の比較検討を行って採用を決定したか。					
		3) 所要アンカー力の設定は適切か（安定計算結果との整合性・安全率負担割合）。					
		4) アンカー工の安定性検討に使用する地盤定数等の設定根拠は明確であるか。					
		5) 地盤定数の決定に必要な調査（引抜試験等）は実施されているか。					
		6) アンカー工の機能（引き止め効果・締め付け効果）を明確にしているか。					
		7) アンカー工の施工位置は、部分的な応力集中が発生せずに、全体として山腹崩壊に抵抗させるような位置を計画しているか。					
		8) アンカー体定着部の地質状態は安定しているか。					
		9) アンカー定着長、自由長の設定は適切か。					
		10) 1本当たりの設計アンカー力は、定着部、頭部の地盤状況を考慮して決定したか。					
		11) アンカー工の打設方向は、山腹崩壊方向に平行であるか。					
		12) アンカー工の横断方向の配列は、山腹崩壊端部まで適切に配置しているか。					
		13) アンカー工の間隔は標準間隔（2～4 m）で計画しているか。					
		14) アンカー施工段数は、山腹斜面の崩壊特性、1本当たりのアンカー力、受圧板構造および地盤支持力の関係等を考慮して決定しているか。					
		15) アンカー打設角度は、施工性を考慮して、水平面より－10～＋10度の範囲を避けた計画としているか。					
		16) アンカー工の型式は、地盤の状況や設計アンカー力に応じて、適切な型式を選定しているか（摩擦型・支圧型・混合型）。					
		17) アンカー材は、地盤の状況や削孔方法、設計アンカー力等の施工性・経済性を比較して選定しているか。					
		18) アンカー施工段数、打設角度、アンカー材等は、複数の施工パターンを検討し、最も経済的な組み合わせを選定しているか。					
		19) アンカー材の各部材は、十分な防錆機能を有しているか。					
		20) 選定したアンカー材は、耐久性が確保され、施設管理が容易な構造であるか。					
		21) アンカー受圧構造は、設計アンカー力、地盤支持力、施工性等を比較検討して選定しているか。					
		22) 受圧構造物の構造計算は適切に行われ、安定条件を満たしているか。					
		22) 受圧構造物支持地盤は、アンカー力および浸食等に対して安全であるか。					
		23) アンカー工山側移動層の受動破壊について検討しているか。					
		24) アンカー工谷側移動層の単独すべりの危険性は検討しているか。					
25) 確認試験の方法、設計荷重は整理しているか。							

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
			該当対象	確認	確認日		
					その日付を記入		
14	落石予防工	1) 現地調査により落石危険箇所を把握し、落石の種別、分布及び規模を整理しているか。					
		2) 落石危険箇所について、平面図・縦断図に表記しているか。					
		3) 種別の選定及び配置は現地状況を考慮し決定しているか。					
		4) 落石防護工との併用が検討されており、適切な工種及び施工規模になっているか。					
15	斜面切取工	1) 斜面切取の範囲及び切取り勾配は適切か。					
16	転石整理工	1) 施工範囲は適切か。					
		2) 転石整理の方法は現地状況を考慮し決定しているか。					
		3) 仮設工は現地状況を考慮し決定しているか。					
		4) 整理後の転石処理は適切か。					
17	被覆工	1) 被覆工の選定は、現地の岩盤状況を考慮し決定しているか。					
		2) 法砕工は現地状況を考慮し決定しているか。					
		3) 吹付工は現地状況を考慮した吹付厚となっているか。					
		4) 緑化の可否について十分検討され、適切な吹付の種別が選定されているか。					
18	固定工	1) 種別の選定は、現地状況を考慮しているか。					
19	ロープ伏工・掛工	1) ロープ伏工・掛工を行う範囲は適切か。					
		2) 斜面勾配の計測箇所は適切か。					
		3) アンカーの種別選定は現地状況を考慮し決定しているか。					
		4) ロープ伏工・掛工の規格選定は適切か。					
20	接着工	1) 岩種及び風化状況を考慮し決定しているか。					
		2) 仮設工は現地状況を考慮し決定しているか。					
		3) 数量の算出方法は適切か。					
21	根固工	1) 対策箇所は、岩石の基部に構造物を設けられるか検討したか。					

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の 概要「6. その他記 載等にあたっての留 意事項」を参照
			該当対象 該当対象項 目を抽出し ○印を記入	確認 照査を完了 した項目に ついて○印 を記入	確認日		
					その日付を記 入		
22	落石防護工	1) 現地調査により落石危険箇所を把握し、落石の種別、分布及び規模を整理しているか。					
		2) 落石危険箇所について、平面図・縦断図に表記しているか。					
		3) 落石防護工は、近傍類似箇所での既往の落石現象、数値シュミレーション手法等により現地に即した跳躍高に対応する位置と高さを検討したか。					
		4) 落石防護工の種別は、想定した落石エネルギーに対して安全な構造であり、且つ施工性、経済性等を比較検討して決定したか。					
23	森林造成	1) 森林状況を確認し、必要な森林造成計画となっているか。					
		2) 植栽樹種は落石・崩壊対策に適した樹種となっているか。					
27	山腹緑化工	1) 吹付工は切取法面の吹付工フロー等を参考に使用条件や目的及び経済性を検討し適正に選定したか。					
		2) 実播工の設計は、土質、土壌硬度、PH及び周辺環境に配慮し適正に設計したか。					
		3) 山腹緑化工設計法面は、山腹基礎工を効果的に配置し、斜面の安定を確保し適正に設計したか。					
		4) 切土及び盛土斜面において、植生の生存基盤の造成または雨水分散のため、木柵工又は筋工等の緑化基礎工を適正に設計したか。					
		5) 草本類、木本類の導入を図るよう緑化工を適正に組合せて検討したか。					
		6) 生物多様性保全上重要な地域において山腹緑化工を行う場合は特に保全すべき希少種等の生育環境の保全に配慮した緑化植物を適正に選定したか。					
28	施工計画	1) 施工方法、手順は適切か。					
		2) 運搬路、仮設道及び施工ヤード等の確保を検討しているか。					
		3) 附帯工として計画する工種はあるか。					
		4) 樹木、植生等への影響を配慮しているか。					
		5) 騒音、振動、排ガス、汚濁水等の影響を配慮しているか。					
20	コスト縮減	1) コスト縮減策を検討しているか。					

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

追加項目記入表

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料	備考
			該当対象	確認	確認日		
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入		
						確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等にわたっての留意事項」を参照

成果品条件の照査項目一覧表

(照査 ③)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照査の日付 : 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	照査技術者	管理技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	照査項目	照査内容		照査③			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査委員の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
				該当対象	確認	確認日		
1	協議内容	1)	受・発注者間で協議した内容が反映されているか。					
2	設計計算書	2)	設計条件、施工条件は適正に運用されているか。					
		3)	インプットされた値は適正か。					
		4)	各検討設計ケースは適切か。					
		5)	荷重、許容応力度の取り方は妥当か。					
		6)	安定計算結果は許容値を満たしているか。（変位量、安定に対する安全度、根入れ深さ）					
		7)	荷重図、モーメント図等は描かれているか。					
		8)	施工を考慮した計算となっているか。					
		9)	応力度は許容値を満たしているか。また、単位は適正か。					
		10)	図・表の表示は適正か。					
		3	設計図	1)	打合せ事項は反映されているか。			
2)	縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と整合されているか。							
3)	全体一般図等に必要項目が記載されているか。（法線、既設構造物、他所管施設、付属構造物等）							
4)	構造物の基本寸法、高さ関係は照合されているか。							
5)	必要寸法、部材形状及び寸法等にもれはないか。							
6)	使用材料及びその配置は計算書と一致しているか。							
7)	構造詳細は適用基準及び打合せ事項と整合しているか。							
8)	各設計図が相互に整合しているか。 ・一般平面図と縦断面図、横断面図、構造図 ・構造図と仮設図 ほか							
9)	設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。（特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合しているか。）							
10)	レイアウト、配置、文字サイズ等は適切か。							
11)	解り易い注記が記載されているか。							
12)	水位、地質条件、岩盤線等、設計条件が図面に明示されているか。							
13)	既設構造物及び他所管施設は表示されているか。							
14)	標準図及び定規図は作成されているか。							
15)	図面が明瞭に描かれているか。（構造物と寸法線の使いわけがなされているか。）							

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	照査項目	照査内容	照査③			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
			該当対象	確認	確認日		
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入		
4	数量計算書	1) 数量計算は、森林整備保全事業設計積算要領、運用細則及び打合せ事項と整合しているか。(有効数字、位取り、単位、区分等)					
		2) 数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致するか。					
		3) 数量取りまとめは、工種毎、材料毎に打合せ区分にあわせてまとめられているか。					
		4) 数量計算の根拠となる資料(根拠図等)は作成しているか。					
		5) 横断面図による面積計算、長さ計算の縮尺は図面に整合しているか。					
		6) 施工を考慮した数量計算となっているか。					
		7) 数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打ち合わせと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。					
		8) 使用する材料の規格及び強度等は記入されているか。					
5	赤黄チェック	1) 赤黄チェック等により照査したか。					
6	報告書	1) 報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を満足しているか。					
		2) 打合せや協議事項は反映されているか。					
		3) 設計条件の考え方が整理されているか。					
		4) 比較検討の結果が整理されているか。					
		5) 工事発注時に仕様書で指定すべき事項・条件明示すべき事項が明記されているか。					
		6) 「電子納品要領(案)」に基づいて適正に作成したか。					
		7) 今後の課題、施工上の申し送り事項及び工事発注に際しての留意事項が記述されているか。					
7	TECRIS	1) TECRISの内容について、発注者と確認を行ったか。					

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

追加項目記入表

No.	照査項目	照査内容	照査③			確認資料	備考
			該当対象	確認	確認日		
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入		
						確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等に当たっての留意事項」を参照